

関高校における併設型中高一貫教育の在り方について ～高校改革リーディングプロジェクト推進事業～

関 高 等 学 校
リーディングプロジェクト小委員会

目 次

1 中高一貫教育の基本理念

- ＜地域の風土、文化、産業＞
- ＜不易と流行＞
- ＜校訓を具現する知・徳・体の調和のとれた全人教育＞
- ＜6年間の教育の在り方＞

2 教育目標：「グローバルな人材育成」

- (1) 「地域社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性」(Leadership)の育成
- (2) 「清流の国ふるさと岐阜県への誇りと愛着」(Identity)の育成
- (3) 「世界に通用する語学力と国際感覚(グローバル人材)」(Internationality)の育成

3 目指す姿と具体的な教育内容

(1) リーダー性の育成 (Leadership)

- ＜目指す姿＞
 - ① 自然、社会、人文等のあらゆる分野に関心を持った人間
 - ② リーダーに必要なコミュニケーション能力や論理的な思考力を身に付けた人間
- ＜具体的な教育内容＞
 - ① 生徒の自主的な活動が展開される学習環境を整備する
 - ② 豊富で多様なリーダー経験の機会を提供する

(2) 「地域社会人」としてのアイデンティティーの育成 (Identity)

- ＜目指す姿＞
 - ① 地域社会の一員としての自覚と責任感を身に付けた人間
 - ② 活力あるよりよい地域社会づくりに貢献できる人間
- ＜具体的な教育内容＞
 - ① 地域への誇りと愛着を育む
 - ② 地域の人々や先輩に学ぶ
 - ③ 地域の情報を発信する

(3) 世界に通用する国際性の育成 (Internationality)

- ＜目指す姿＞
 - ① 世界に通用する語学力を身に付けた人間
 - ② 高い志を持って、グローバル社会で活躍できる人間
- ＜具体的な教育内容＞
 - ① 実践的な英語力を身に付けるための英語教育を強化する
 - ② 留学等の異文化体験を促進する
 - ③ 持続可能な発展のための教育(ESD)」を推進する

1 中高一貫教育の基本理念

匠(たくみ)の技と心を受け継ぐグローバル（Global）な人材の育成

～「進取」「至誠」「錬磨」（校訓）を具現する知・徳・体の調和のとれた全人教育～

<地域の風土、文化、産業>

関市は周囲を山に囲まれ清流長良川が流れる環境豊かな地域である。その豊富で良質な焼刃土(やきばつち)と清流長良川の水は刀鍛冶に最も理想的な風土条件となり、日本各地から多くの刀匠がこの地に集まった。この刀鍛冶の伝統は今も息づき、その卓越した匠の技は、現在、刀匠や刃物産業に受け継がれ、世界でも有数の刃物産地として高い評価を受けている。

<不易と流行>

新たな中高一貫教育校では、関の刃物が伝統的な価値（「不易」）を受け継ぎながら時代の変化（「流行」）に柔軟に対応することで新たな価値を生み出しているように、この地域の子どもたちがより良いものを追求する匠の技と心（精神）を受け継ぎ、感性や知識を深め、現代のグローバル社会に対応できる様々な能力を身に付け、自身が育ったふるさと岐阜県に貢献できる人材へと大きく成長することを目指したい。それは、岐阜県を象徴する鮎が清流長良川で生まれた後一度海に至り、再びふるさとの川へもどって次の世代へと引き継ぐ姿にもたとえることができる。鮎は全国各地の川に生息しているが、長良川で育った鮎の味が他の河川で育った鮎と違うように、ふるさと岐阜の発展に貢献できる人材を6年間の中高一貫教育による新たな環境と教育内容の中で育成したいと考えている。

<校訓を具現する知・徳・体の調和のとれた全人教育>

具体的には、校訓に掲げる、「進取」の気概に富み、「至誠」の心を持ち、日々怠ることなく自己を鍛えて「錬磨」できる、知・徳・体の調和のとれた発達を促す全人教育を通して、地域のリーダーとして相応しい学力と豊かな人間性を備えた「地域社会人」の育成を目指したい。ここで言う「地域社会人」とは、高い志と世界（Global）を見渡す広い視野を持ち、夢や目標に向かって挑戦し続ける力、豊かな人間関係を築き地域（Local）に関わる問題や持続可能な環境づくりなどに積極的に関わり、互いに力をあわせて問題解決できる力をもつグローバル（Global）な人材である。そのような人材を育成するため、中学・高等学校の校種をこえ、6年間の一貫した一体的、系統的な教育を進める。

<6年間の教育の在り方>

次に「6年間の教育の在り方」については、まず始めの2年間は養成期とし、人間関係の構築・基本的な生活習慣の確立を徹底する。この2年間に良好な人間関係や学習方法・学習習慣を身に付けることで、その後の学校生活を充実させるための土台を築きたい。続く2年間は充実期とし、中学生から高校生への心身の発達のなかで興味・関心を広げ幅広い教養を身に付け、高い志や生き方を考える。中学校から高等学校への進学の際に受験がないことから学校生活が連続し、自らの興味・関心に応じた活動や学習に集中できるとい

た利点を生かし、世界に目を向け、生徒同士の活動の中からリーダー性・協調性を育み、自己理解を深める期間としたい。そして、最後の2年間は発展期とし、充実期の自己理解から見えてきた自己の夢・志を明確にして、その実現に向け全力で取り組む期間とする。6年間3ステージの人材育成段階のそれぞれには、グローバルなコミュニケーション手段として「使える英語力」の育成をめざした英語教育を据え、確かな幅広い学力を身に付けるための学習カリキュラム、職業観や生き方の育成を目指したキャリア教育、ふるさと岐阜県・関市を支える地域社会人育成のための郷土（ふるさと）学習をとり込んで6年間を通した教育を提供するのである。

このように、6年間の一貫教育の中で、いつの時代にも共通する「不易」としての教育をしっかりと行った上で、時代の変化に柔軟かつ的確に対応した「流行」としての教育をバランスよく取り入れ、時代を担う子どもたちに、この激動の時代をたくましく生き抜く力を育みたい。

2 教育目標：「グローバルな人材育成」

地域のリーダーとしての人間性と相応しい学力並びにふるさと岐阜への誇りと愛着を持ち続ける心を備えた「地域社会人」を育成するためには、早期からの一貫した教育が大切である。特に、グローバルな人材＝世界規模で物事を考え地域で活動できる人材を育成するためには、真に使える英語力はもちろんのこと、論理的な思考やそれらを表現する力（論理的思考力・表現力）などの言語活動能力の育成も大切にしたい。また、今後の世界は、新興国の存在感が高まる中、激しい国際競争にさらされることが予測される。従って、こうしたグローバル社会で活躍するためには、語学力だけでなく、コミュニケーション能力や異文化を受入れる力、課題発見や課題解決力などが求められる。そのため、次の3点を重視した人材育成に取り組みたい。

（1）「地域社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性」（Leadership）の育成

- ① 中高一貫教育の6年間の最初の2年間（養成期）に学習習慣・学習方法を確立することで基礎・基本を身に付け、学校生活を充実させることにより、6年間を通して確かな学力の定着を図るための土台を造る。
- ② 学校行事や部活動、地域の教育資源の活用を通して異年齢集団が関わりあうことで、集団の中での協調性、リーダー性を身に付け、人間性豊かなリーダーの育成に努める。

（2）「清流の国ふるさと岐阜県への誇りと愛着」（Identity）の育成

- ① 岐阜県・関市の歴史や伝統・文化を尊重し、環境、経済、社会の課題に目を向け持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を育成する。
- ② このために、生徒自らが課題を発見し、考え、判断し、論理的な思考力を伸ばせる学習の充実を図る。

(3)「世界に通用する語学力と国際感覚（グローバル人材）」（Internationality）の育成

- ① 国際化に対応する教育を重視する観点を踏まえて、6年間にわたりじっくり時間をかけてコミュニケーション能力の育成に取り組むなど、外国語教育の充実を図る。
- ② 教育活動の様々な場面で「持続可能な発展のための教育（ESD＝Education for Sustainable Development）」を取り入れ、国際理解に関する内容を盛り込む。
- ③ ディスカッションの力を養う指導を取り入れることで語学力の定着だけでなくコミュニケーション能力や異文化を受け入れる力、課題発見や課題解決力などの国際感覚や行動力を育成する。

3 目指す姿と具体的な教育内容

(1) リーダー性の育成（Leadership）

< 目指す姿 >

- ① 自然、社会、人文等のあらゆる分野に関心を持った人間
- ② リーダーに必要なコミュニケーション能力や論理的な思考力を身に付けた人間

真のリーダーシップとは何か。従来のリーダー像では、教えられたことに基づいて確実な解を素早く導き出すことが求められてきた。リーダーシップにも「不易」と「流行」があるとすると、これは「不易」の部分と言える。しかし、生徒はこれまでの社会を形づくってきた私たち大人を乗り越える存在にならなければならない。激しく変化する社会にあっては、教えられたことだけをしていたのではいつかは壁に突き当たる。「それは本当か」と自分に問いかけながら自ら学習し理解しようとする姿勢を養うことを大切にしたい。

また、周囲の信頼を得ることもリーダーには欠かせない条件である。周囲の人に資質を認められて初めてリーダーになれることを生徒にも理解させたい。それは周囲からの信頼と支援がなければ仕事を円滑に進めることができないからである。さらには、ある任務ではリーダーを、別の任務ではフォロワーを務めるというように、場面に応じて柔軟に自分の役割を認識し、動ける力も求められる。つまり、置かれた状況の中で周囲を巻き込んでいく力をリーダーシップと捉え、そうしたコミュニケーション能力を身に付けたリーダーを育成したい。

< 具体的な教育内容 >

- ① 生徒の自主的な活動が展開される学習環境を整備する
ア) 養成期

中高一貫教育の最初の2年間（養成期）に勉強に対する心構え（学習力）をきちんと身に付けさせる。この学習力の前提がなければ、教師がいくら学習指導（教えること）に力を入れても、生徒の

中で知識が内在化せず、教師の努力は空回りする。

イ) 充実期

続く2年間（充実期）に生徒の興味関心の広がりに対応した幅広い教養を身に付けさせたい。具体的には、幅広い分野で総合的に発揮できる力、いわば「応用の利く基礎力」を育成する。

ここでは教師が一方的に教え込むのではなく、生徒がしっかり考えるように仕向けたい。

ウ) 発展期

最後の2年間（発展期）では、大学合格だけにとらわれるのではなく、先を見通して「人としてどう生きるか」を考え続けられる生徒を育成したい。

このような学習環境の整備には教師の指導力アップが必要である。様々な能力を持った教師の力を最大限に活かせるように、個々の教師のノウハウをまとめた指導計画書を作成し、6年間を見通した指導計画を冊子の形態にするなどして共有したい。また、ICTを活用して生徒が主体的に学習できる環境を整備し、生徒が自主的に学習することを教師が教える必要がある。

また、理数教育を強化する一方、それを下支えする国語力をしっかりと養成することで、社会に出てから必要となる言語活用能力（広い意味でのコミュニケーション能力。自分の考えを「理由や根拠」を明確にして相手に伝える能力や、「異なる文化や考え方をもつ人」との交流、一般的には国際社会の場面で自分の意見を述べる能力）を育成する。

② 豊富で多様なリーダー経験の機会を提供する

地域に密着し、地域からの援助・協力が得られやすいという公立学校のメリットを活かし、地元の福祉施設を訪れてボランティアをしたり、地域の企業や研究機関などから講師を招いたりするなど、地域の教育資源を積極的に活用する。これらの活動においては、仲間との間で粘り強く合意の形成を求めて活動する経験内容を充実する。

ア) 中高合同行事や部活動等、異年齢集団による教育活動を通して互いを尊重する態度や協力して取り組む姿勢、リーダーの資質等を磨く。

イ) 様々な体験活動（学習合宿・海外研修・ボランティア活動等）を通して多様な役割を経験させる。また、場面に応じて自分の役割を認識し、動ける力を育てる。

（例1）関市学校教育夢プランとの協同活動

（例2）地域の特別支援学校との交流活動

（2）「地域社会人」としてのアイデンティティーの育成（Identity）

< 目指す姿 >

- ① 地域社会の一員としての自覚と責任感を身に付けた人間
- ② 活力あるよりよい地域社会づくりに貢献できる人間

グローバル化によって、世界的規模での生活と文化の平準化が進む中、地域固有の伝統文化や産業が衰退・消滅することが懸念されるが、今後もグローバル化の更なる進展は不可避である。そこで、グローバル社会に適応しつつ地域への誇りと愛着をもって持続可能な社会づくりに貢献できる「地域社会人」を育成したい。そのためには、自身を育んだ地域の自然や文化を知り、地域の先達や同窓生の経験に学ぶ機会をもちたい。さらには学んだ成果を日本はもとより世界各地域に向かって発信できる力や、よりよい地域社会づくりに貢献できる行動力を身に付けさせたい。具体的には以下の事業を通じ、グローバル社会の中であって、ふるさと「清流の国ぎふ」に貢献できる「地域社会人」としてのアイデンティティーの育成を目指す。

< 具体的な教育内容 >

① 地域への誇りと愛着を育む

ア) 関市とその隣接地域の自然環境や伝統文化、歴史、産業等について学ぶ。

イ) 大学、博物館、自治体、企業等と連携しつつ、中学部および高等部の理科や社会、地歴公民、L H R、「総合的な学習の時間」等の授業を活用する(中高大連携、博学連携、インターンシップ等の実践)。

ウ) その際には、体験や実験等、実体験を取り入れた学習を積極的にとり入れる。

② 地域の人々や先輩に学ぶ。

ア) 同窓生や地域の人々、保護者を中心に、第一線で活躍する社会人や大学人から学ぶ機会を設け、自身や地域の未来を創造する糧とする。

イ) 行事当日のみならず、事前・事後学習の期間もあわせ「未来創造週間」とし、自身のキャリアデザインに関わる情報を得るとともに、熟考する機会とする。

ウ) 「職業」「地域」「先輩」「大学」「研究」をキーワードとする同様の催しは、中学部3年間の中でも実施するものとする。

< 高1～3生における「未来創造週間」の概要 >

高校1年生・・・職業別ガイダンス(「未来創造週間Ⅰ」)

第一線で活躍する社会人を複数名招き、職業や生き方について学ぶ。

高校2年生・・・先輩を囲む会(「未来創造週間Ⅱ」)

国内外で活躍、あるいは地域に戻って活躍する同窓生を複数名招き、生徒は各会場で職業や学問、高校時代の思い出や体験談を聞き、自身の生き方に活かす。

高校3年生・・・校内オープンキャンパス(「未来創造週間Ⅲ」)

高校3年までに培った力を活かし自身の夢を実現するため大学で何を学ぶべきかを考える。様々な学部学科の教官による模擬講義に参加し、大学で学ぶ学問分野の中身について具体的に学ぶ機会とする。

③ 地域の情報を発信する

近年、名古屋を中心とした東海圏を訪れる外国人観光客が増加傾向にあり、アジア各国を中心にリピーターも多いと聞く。この地域においても史跡や文化遺産、グルメなどを目的とした訪問も多く、小瀬鵜飼や関鍛冶、美濃和紙やうだつの町並みなどを有する当地域は観光地としても潜在的な力をもつ。従って、これら地域の自然や伝統文化のうち、観光資源として活用可能なものについて、英語の観光マップやガイドブック、HPを作成し、外国人観光客誘致に貢献する。特に高校では英語や情報の授業、部活動（英語部、地域研究部、自然科学部等）を活用するなどして、地域社会に貢献できる機会とする。

（３）世界に通用する国際性の育成（Internationality）

<目指す姿>

- ① 世界に通用する語学力を身に付けた人間
- ② 高い志を持って、グローバル社会で活躍できる人間

国のグローバル人材育成推進会議の「2012 年審議のまとめ」では、グローバル人材の概念を次の３つに整理している。

要素(1)：語学力・コミュニケーション能力

要素(2)：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素(3)：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

そこで求められているのは語学力だけではない幅広い能力であり、またこうした幅広い能力を持ったグローバル人材こそ今後求められることになる。

そこで、目指す中高一貫校においてもより幅の広い能力をもったグローバル人材として、下記の３つを大きな柱とした。

- (1)「実践的な英語力を身につけさせるための英語教育の強化」
- (2)「留学等による異文化体験の促進」
- (3)「ESD」の視点を取り入れた教科横断的な学習

この３つの柱を通して、「世界に通用する語学力」「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」といった真の国際性（Internationality）を身に付けた人材の育成を目指したい。

<具体的な教育内容>

- ① 実践的な英語力を身に付けるための英語教育を強化する

「聞く」「話す」「読む」「書く」の４技能をバランスよく身に付け、英語でコミュニケーションができることを目標にする。この４技能を身に付けさせるために、生徒が多様な言語活動を行う授業への切り替えを目指す。また、授業外でも英語にふれる機会を増やすために、次のような推進事業を実施する。

- (1) 授業におけるコミュニケーション活動の場面の拡大
(例)「英語表現」では社会問題などについて話し合い、それをもとに発表やディベートを行うなど「話す」「書く」の発信力を重視した科目とする。
- (2) 英語のスピーチコンテスト、ディベート大会などへの積極的な参加を促す。また、校内での大会も計画する。
- (3) 国内で行われる英語キャンプなどへの参加奨励と助成金の交付。
- (4) TOEFL ジュニアの団体受検（1 年生全員）に対する費用補助。
- (5) 「英語教員の資質・能力の向上」として、教員の積極的な研修参加を促す。

② 留学等の異文化体験を促進する

- (1) 帰国生徒・留学生の積極的な受入。
- (2) 海外留学（短期も含む）の奨励と助成金の交付。
- (3) 海外への関心を高めるための海外勤務・留学経験のある社会人等との交流、海外への進学・留学のための情報提供。

③ 持続可能な発展のための教育(ESD)」を推進する

グローバル社会の諸課題について ESD の視点から教科横断的な学習に取り組む。そのため、環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境、経済、社会の各側面から学際的かつ総合的に取り組む。一例を挙げるならば、「コミュニケーション英語」では、環境問題や人権問題、絶滅危惧種の保護、途上国の貧困といった世界各国が協力して取り組むべきことについての英文を読み、話し合いや発表等をする。その際、「現代社会」での学習成果を活かすとともに、今後学習する「地理」や「世界史」の中でも学習成果を深める活動を設定する。

<関高校における併設型中高一貫教育の在り方>

匠(たくみ)の技と心を受け継ぐグローバル（Glocal）な人材の育成

～「進取」「至誠」「錬磨」（校訓）を具現する知・徳・体の調和のとれた全人教育～



地域社会のリーダーとなる
高い学力と豊かな人間性
（Leadership）の育成

清流の国ふるさと岐阜県への
誇りと愛着（Identity）の
育成

世界に通用する語学力と
国際感覚（Internationality）
の育成



<目指す姿>

- ① 自然、社会、人文等のあらゆる分野に関心を持った人間
- ② リーダーに必要なコミュニケーション能力や論理的な思考力を身に付けた人間

<具体的な取組>

- ① 養成期、充実期、発展期としての学習環境の整備
→ 位置づけの明確化と指導の重点化
- ② 多様なリーダー経験の提供
・ 関市夢プランとの協同活動
・ 特別支援学校との交流活動など

<目指す姿>

- ① 地域社会の一員としての自覚と責任感を身に付けた人間
- ② 活力あるよりよい地域社会づくりに貢献できる人間

<具体的な取組>

- ① 地域への誇りと愛着を育む
→ 郷土の伝統と文化を学ぶ学習
- ② 地域の人々や先輩に学ぶ
→ 職業別ガイダンス、先輩を囲む会、校内オープンキャンパス
- ③ 地域の情報を発信する
→ 英文の観光マップ、ガイドブック、ホームページの作成など

<目指す姿>

- ① 世界に通用する語学力を身に付けた人間
- ② 高い志を持って、グローバル社会で活躍できる人間

<具体的な取組>

- ① 実践的な英語力を身に付ける
→ 英語でのコミュニケーション活動の拡大
→ 英語ディベート、プレゼン・スピーチコンテスト
→ TOEFL iBTの団体受験（1年）
- ② 留学等の異文化体験の促進
→ 留学の奨励と助成金交付
- ③ 持続可能な発展のため教育（ESD）の推進（グローバル社会の諸課題について学ぶ）



（目指す人間像）
（併設型中高一貫校の姿）

地域のリーダーとして相応しい学力と豊かな人間性を備えた「地域社会人」
”清流スピリット”が具現化された、持続発展教育を教育の柱とする学校
グローバルなコミュニケーション手段として”真に使える英語”が身につく学校
ふるさと岐阜県を支える「地域社会人」としての進路希望が実現できる学校